

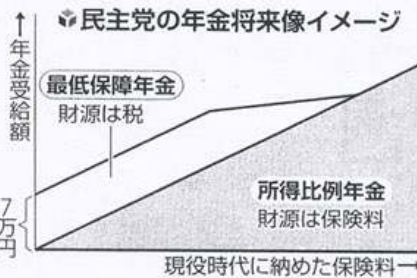
社会保障 安心

年金改革

普政権は、年金制度の抜本改革を掲げている。実現すれば、1961年に行われた「国民皆年金」以来の大改革になる。しかし、民主党への政権交代から9か月過ぎても、具体案の検討はほとんど進んでいない。参院選で各党はどのような主張をしているのか。

(社会保障部 石崎浩、野口博文)

参院選2010



年金に関する各党の主な参院選公約	
民主党	制度の一元化、月額7万円の最低保障年金を実現する
自民党	保険料免除を受けても基礎年金を満額受給できる制度にする
公明党	低所得者の基礎年金を25%上乗せする加算年金制度を創設
日本共産党	最低保障年金を創設し、国庫負担で月5万円を保障
国民新党	制度を一元化。基礎年金を税方式化。年金国会の召集を求める
新党改革	60歳以上で一定以上働くと、年金が減額される制度を廃止
社民党	制度を一元化。所得比例年金と「基礎的暮らし年金」を創設
たちあがれ日本	非正規労働者に厚生年金の適用を拡大。基礎年金額を改善
みんなの党	将来的に年金制度を一元化。歳入庁設置で徴収を改革

「最低7万円」進まぬ具体化

■無年金42万人 暮らしたい」と話す。

「保険料を払う余裕がなかった」と、埼玉県内のアパートで独り暮らしする男性(68)は振り返る。

15年間働いた町工場を50歳代で解雇され、建築現場などで日雇い労働を続けた。町工場に勤めていた期間以外、保険料は未納だった。

年金受給に必要な納付期間(原則25年)を満たしておらず、年金がない。生活保護を受けているが、「少額でも自分でかけた年金で暮らしたい」と話す。

現行の基礎年金は、40年加入の満額で月約6万6000円。ところが、保険料未納や低所得者向け免除制度などが原因で、受給者の約4割は月5万円未満しか受け取っていない。無年金の高齢者も全国で42万人に上り、「国民皆年金」は、形だけになっている。

「全員に……」誤解広がる

「私には関係ないんですか」。年金受給を間近に控えた受講者の顔に、ありありと失望の色が浮かぶ。

東京都内の年金事務所では、講師を務める社会保険労務士の東海林正昭さんは、必ず、急押ししている。

「全員に……」誤解広がる

「私には関係ないんですか」。年金受給を間近に控えた受講者の顔に、ありありと失望の色が浮かぶ。

東京都内の年金事務所では、講師を務める社会保険労務士の東海林正昭さんは、必ず、急押ししている。

参院選の選挙公約で、各党の主張には大きな隔たりがある。

民主党案は、職業によって分立している現行制度を一元化し、どんな職業でも同じ所得比例年金に加入させることが柱。その金額が少ない人には、満額で月7万円の最低保障年金を補足的に支給する。給付水準と保険料負担が制度によって異なる不公平をなくすことが目的だ。

国民新党と社民党なども、現行制度を大幅に変える案を掲げている。

これに対し、自民、公明両党は、保険料の徴収で賄う現行制度の大枠を維持する考え。低所得者でも基礎年金を満額受給できる制度の導入など、無年金・低年金対策に重点を置く。

超党派協議 実現は未知数

能ないリスクをはらんでいる。自民党のように現行制度を手直しする案は、実現可能性こそ高いものの、保険料未納などの問題に有効な処方せんを示していない。

菅首相は先月29日に開かれた政府の「新年金制度に関する検討会」で、「年金は、党派を超えた議論で改革を進めることが望ましい」と強調、年金改革に関する超党派の協議を野党に呼びかける考えを示した。

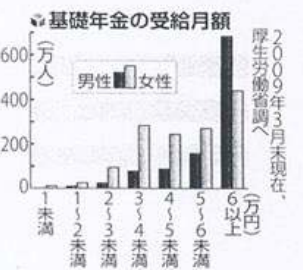
年金改革をめぐっては、2005年、国会に与野党が参加する両院合同会議が設けられた。しかし、各党に歩み寄りの機運は見られず、成果はほとんどなし。その後、野党時代の民主党は、自民党から協議再開を呼びかけられても応じなかった。

年金問題では、これまで各党が批判の応酬を繰り返してきた。参院選後に与野党の建設的な話し合いが実現するかどうかは未知数だ。

相談室



年金の相談に訪れる高齢者ら(東京・足立区の足立年金事務所で)



国民皆年金 日本では20歳以上60歳未満の全員が、公的年金制度の対象になっている。会社員に自営業者や無職の人などを対象とする国民年金が創設され、「国民皆年金」体制の大枠が整った。だが、自営業者などの国民年金加入者は保険料が給与天引きではないため、未納が深刻化。制度によって保険料と給付水準に格差があること、転職で記録漏れが起きやすいことなども問題になっている。

「私には関係ないんですか」。年金受給を間近に控えた受講者の顔に、ありありと失望の色が浮かぶ。

東京都内の年金事務所では、講師を務める社会保険労務士の東海林正昭さんは、必ず、急押ししている。

「私には関係ないんですか」。年金受給を間近に控えた受講者の顔に、ありありと失望の色が浮かぶ。

東京都内の年金事務所では、講師を務める社会保険労務士の東海林正昭さんは、必ず、急押ししている。